

レジメ「保護者対応について～大震災被害の事例を通して～」

阿部幸泰

I：「家族と係わり合う折に留意していること」 （別紙）

<http://dekunobo-abe.web.infoseek.co.jp/batuku/19-kouki/kazoku-sien-ryuiten.pdf>

II：話題提供

事例① 「大震災・障害のある子どもたちの今」

（NHK教育TV・福祉ネットワーク：ビデオ）

「地域の中学校へ進学の報に接して」 （別紙）

<http://dekunobo-abe.web.infoseek.co.jp/batuku/21-zenki/tyugaaku-singaku.pdf>

事例② 朝日新聞記事「助けた縁に助けられ」 （別紙）

「事例①、②の保護者からのメール」 （別紙）

III：質疑応答

IV：その他

PC用HP「雑学」：<http://www.h4.dion.ne.jp/~dekunobo/>

（YahooでもGoogleでも、検索「阿部幸泰 雑学」でヒット）

携帯用HP「雑学」：QRコード



手を挙げ、約5万人とされる県民の保で、浪本松者者は、野豊テルと本と本、観ら野、国は、め、する、と話す。

11.4.6.

朝日新聞「社会面」

（小林誠一）

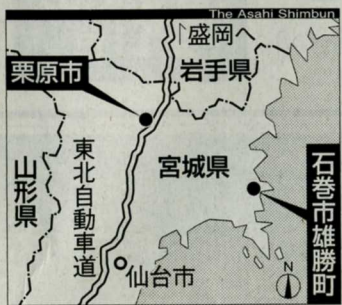
# 助けた縁に助けられ

栗原→石巻 支援に誓う再起

津波で自宅も仕事場も流された宮城県石巻市のバス会社経営の夫婦に、山間部の仲間から支援の手が差し伸べられた。3年前の岩手・宮城内陸地震のときとは逆の立場だった。「恩返し」と言われた夫婦は気持ちを立て直し、「もう一度、地域の足に」と再起を誓う。いくつもの海岸沿いの集



屋上に載ったバスの前で話す高橋武彦さん(中央)、真由美さん(左)と佐々木豊志さん。4日、宮城県石巻市、葛谷晋吾撮影



落が津波にのまれた石巻市東端の雄勝町。「南三陸観光バス株式会社」を運営する高橋武彦さん(60)と真由美さん(50)は、市中心部に歩いて無事だった。同居する次女以下4人の娘と武彦さんの母親、7人の従業員もみな避難した。観光バス・タクシーを始めたのは24年前。小型バス2台で始め、1台ずつ増やしていった。夫婦の合言葉は「大手の隙間を地道に埋める」。東北の四季巡りを請け負い、子供の学校への

送迎も受注し、年間売上高は1億5千万円になった。「それを一瞬で失うなんて」と武彦さん。

被災6日後、車で寝泊まりしていた一家を、内陸部の宮城県栗原市で野外活動体験を提供する「くりこま高原自然学校」の佐々木豊志校長(53)が訪ねてきた。寸断された道をぬって、 TENT や靴、下着、手動電源のラジオなどの支援物資を、いつものひげ面の笑顔で届けてくれた。

3年前。同校は、現地で震度6強を記録した内陸地震で道を閉ざされ、山からふもとに移らざるを得なくなった。

高橋さん夫婦の長女は、同校で自然体験に参加したことがあった。佐々木校長のブログを見て苦境を知り、2台の車に海の幸を積み込んで駆けつけた。1台を「自由に使って」と置いていった。車は大活躍し、学校は息を吹き返した。

高橋さん一家は今、従業員が紹介してくれた家に暮らす。中学生の四女と五女は、自然学校にホームステイさせてもらうことに。8日には隣の宮城県女川町で、小中学校のスクールバスを再開させる。(上野創)

## 寄り添う

栗津篤史さん(43)

### 生きていく あなたへ

被災者の方々に向けて語る言葉が、正直なところ見あたりません。反響も少ない本誌を

なつた自分がどんな言葉をかけていいかわからない。

避難生活が長びけば被災者はもっとしんどくなります。そんな方々の「何で?」という疑問符をできる限りなくすことが社会の使命です。「可憐な食料

事例①、②の保護者からのメール

事例①

2011. 3. 19.

【 大丈夫でしたか？  
わたしは、湊小学校で避難生活です。  
近所みなさんに支えられみな元気です。  
また、笑顔で会える日まで頑張りましょう。 】

2011. 5. 3.

【 GWですね。  
たくさんご支援いただきありがとうございます。  
明日、ラインラインが復旧した、わたしの実家に移ります。仮設住宅に入れるまでお世話になります。 】

事例②

2006. 7. 16.

【 本日、特別支援教育講座に参加したものです。参加して良かった 本当にありがとうございました。  
帰りの車の中で、何がなんだか分からないけど、涙があふれ出てきて・・・ 真夏の夕立のようでした。  
何をどうしたらよいか？ これでいいのだろうか？ 間違いだったのではないかな？ 子供たちの寝顔や笑顔を見ると、いたたまれなくなる時がありました。  
こんな思いがあったので、お話を聞いて、ほっと背中に背負っているものが軽くなったのでしょうか？ 帰宅後すぐに、メールを と思っておりましたが、泣き疲れたのでしょうか ……。  
今日のお話 本当に ありがとうございます。 】

2011. 5. 10.

【 本当にいろんな人がいるな～、いろんな生き方があるな～、だから、面白いんだな～、日々、そんなことを感じながら生活をしています。

地元に行くと、” どうしようもないね！！ ” この言葉に尽きます。

福島原発のニュースを見聞きすると思いますね。怒りをぶつける相手がいるんだな～、悲しみをぶつける相手がいるんだな～。

自然に向かって怒りや悲しみをぶつけてもどうにもならない。

自然は、どんな課題を私に出したのか？この経験から何を学ぶか？そんなことを日々考えています。

人間は、自然の前では無力ですが、生きる力は無限だな～と感じ、夢や希望の大切さを実感し、みんなの心がひとつになると爆発的な力になるし、自然の力で人間は、癒されるな～と感じる日々を送っています。

失った物は、計り知れませんが、喪ったものはなかったのが幸せだな～と感じ、不思議とあるもので工夫して生活することを楽しんでいる自分がいます。

家を流されたと嘆くより、あんな立派な家に18年も生活できたからラッキーだったよね。

今年になって、模様替えをして断捨離をして、家にお礼ができたね。長年ありがとう \ (^o^)/

なんか、感謝なんですよ、感謝、みんなにありがとうなんですよ。本当に不思議なのですが・・・。

これまで担当していただいていた行政の方には本当に柔軟な対応をいただいています。

本当に不思議なのです。信じられないくらい不思議です。

私たちに係わりを頂いている方々は、心から支えていただいているな～と感じています。

阿部さん、HPに載せてくれてありがとうね、いっぱい元気頂きました \ (^o^)/ 】